

ICAN Monthly Report 5

難民キャンプの「子どもの広場」の様子（ジブチ）



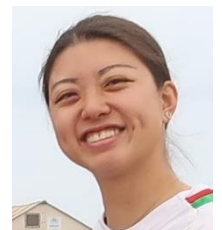
ともに学び成長する「子どもの広場」の活動

首都ジブチ市から車で約4時間離れたところに、マルカジ難民キャンプがあります。ここには、現在も激しい紛争が続くイエメンから命からがら逃れてきた人々約1,400人が暮らしています。アイキャンの職員が初めて訪れた2015年10月、多くの大人たちの不満や不安が渦巻くこの難民キャンプに、子どもたちが安心して遊べる場所はありませんでした。現在も、アイキャンが運営する「子どもの広場」が、日々訪れる約70名の子どもたちにとって唯一の「子どもらしく自由に遊べる空間」となっています。

この「子どもの広場」は、10～20代の青年の難民ボランティア約10名が中心となって運営しています。ボランティアたちは、時間になると集まってくる12歳以下の子どもたちを見守りながら、お兄さん・お姉さんとして遊んだり、スポーツの審判をしたりします。活動後は毎回ミーティングを行い、その日の良かった点、問題点などを振り返り、週末には翌週の活動内容を話し合います。昨年11月から、「子どもの広場」の運営主体となったボランティアたちですが、日々の運営は随分安定し、安心して任せています。

しかし、特に子どもとの年齢が近い10代半ばのボランティアの中には、時々自分が遊ぶことに夢中になってしまったり、子どもへの対応がうまくできなかつたりする人もいます。例えば、あるお絵かきの活動の日のことですが、描き終わっても「子どもの広場」のテント内にとどまり騒ぐ子どもが多く、まだ描いている子どもが落ち着いて描けない状態になりました。そこでボランティアが、描き終えた子どもは外に出よう指示すると、出たくない子どもとそれを追うボランティアで追いかけてしましました。その日のミーティングでは、早速今後の対応方法について話し合われ、翌週からは、絵を描き終えた子どもには、サッカーや長縄などを行うことに決めました。翌週のお絵かきの日、子どもたちは、描き終わると喜んで外の遊び場へと駆けていき、先日のような混乱は起きませんでした。

このように、日々小さな挑戦はありますが、ボランティアたちは子どもたちと向き合い、奮闘しています。ボランティアたちの頑張りや子どもを思う気持ちが伝わってか、最近では、「自分もボランティアになりたい」と、準備や片付けを手伝う子どもも出てきました。「子どもの広場」の活動が、子どもたちにとってもボランティアにとっても、学び、成長できる場になればと思います。



ICAN ジブチ事務所
宇佐美里子（うさみさとこ）
～プロフィール～
鹿児島大学教育学部卒業後、青年海外協力隊としてセネガルに2年間派遣。2017年1月より現職。

Project Site



認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①路上の子どもたち

4月22日/ケソン(フィリピン)

元路上の若者のプレゼンテーション能力を強化



カリエカフェのメンバーに対し、現在も路上にいる子どもにも復学の大切さ等を伝える路上教育のプレゼンテーション能力を高めるため、研修を行いました。今まで実施した路上教育を振り返り、互いのプレゼンテーション

に関して意見交換をしたところ、「皆の発表を聞き、良い点、改善したほうが良い点を議論したことで、どう伝えると効果的かが分かった」(ジョイさん)などの声がありました。

②紛争の影響を受けた子どもたち

4月6・10・27日/ピキット(フィリピン)

3ヶ年事業の最終年度のスタート



モロイスラム解放戦線(MILF)の組織、BDAの事務局長と、現在の和平プロセスの動向やミンダナオ島の情勢を踏まえた今年度の方向性を確認するミーティングを行いました。BDAの事務局長からは、「今年度も連携

して、ミンダナオの平和確立に貢献していこう」との意気込みが述べられ ICAN と BDA で合意書を交わしました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

国際理解教育事業

4月8日/愛知

フィリピン駐在職員による帰国報告会

フィリピン駐在職員2名の一時帰国に伴い、「路上の子どもたちの事業」と「先住民の子どもたちの事業」についての帰国報告会を行いました。参加した9名の方からは、「路上の子どもたちの未来を良い方向に変える活動。夢に向かっていける子どもが増えるといいなと思う」「先住民についてほとんど無知だったので、多くのことを学べて良い機会になった」などの感想を頂きました。



インターン育成事業

4月21日/愛知

インターン生による説明会

日本事務局のインターン生が、NGOのインターンに関する説明会を行い、2名の学生が参加しました。インターンの業務内容や情報収集の仕方など、様々な質問にお答えし、参加者からは、「親身になって詳しく教えていただき、インターンに応募したいという気持ちが強くなった」との声を頂きました。日本事務局、マニラ事務所では、インターンを募集中です。詳細はHPへ。<http://www.ican.or.jp/>



今月の Announcement

広瀬アリスさん×チチカカ、コラボTシャツ第2弾発売！ 購入はこちら <http://www.titicaca.jp/company/news/post-3501/>

女優・モデルの広瀬アリスさんが「つくる人も着る人もHappyになってほしい」という願いを込めて、今年もチチカカさんと一緒にチャリティーTシャツを作ってくれました！ご購入1枚につき、500円がアイキャン等に寄附されます。絶賛販売中です！

今月の Media

4月21日 中日新聞 古本、CD回収活動について

今月の ICAN なる

◎塩原さん、転任後も思いを持ち続けてくださり、ありがとうございます！

マンスリーパートナー 塩原玲美さん

「一人でも多くの生徒に伝えたい」

インタビュー:4月6日

私が以前勤務していた長野県上田高等学校は、文科省のスーパーグローバルハイスクールに指定されており、その研修の一環として、2015年からアイキャンのスタディツアーに参加しています。日頃教員として、「世界の様々な国や状況で暮らす人々について考えよう」と生徒に言うばかりで、自分にはできることはあるのだろうかと思い、引率職員としてツアーに参加しました。

フィリピンを訪れて、国内の格差に驚きました。路上やごみ処分場で暮らす人々がいる一方で、フィリピンの近代的な都市部を目の当たりにし、このような暮らしをしている人々もいるのになぜ…という思いが募り、胸が痛くなりました。一方で、こちらが勇気づけられるほど、路上の子どもたちは明るく元気でしたし、ごみ処分場で働くお母さんたちの表情もたくましいものでした。しかし、彼らが時折見せる寂しげな表情に、現実の厳しさを感じたのも事実です。生徒たちは、目の前の人々の現実を受け止め、整理し、何ができるのかを考えるのに毎日必死でした。毎晩のシェアリングで、言葉を詰まらせながら意見を言う生徒たちの姿に、これからの世界の担い手としての頼もしさを感じました。

帰国後、フィリピンで出会った人々を思い、応援するために今の自分にはできることを考えたときに、まずできるのがマンスリーパートナーになることでした。そして今の私の「アイキャン」は、日本の学校という場で、フィリピンの人々のことを伝え、一人でも多くの生徒に、世界で起こっていることは決して他人事ではない、と感じてもらおうことです。自分や家族、友人を大切にするように、世界にも目を向けられる、そんな大人に成長してもらえよう、多くのことを伝えていきたいと思えます。



【編集者から一言】夏のスタディツアーの日程が、8月23~27日に決定しました！詳細や資料請求はHPからお願いします。<http://www.ican.or.jp>